



5月号 花とみどりの相談所ニュース

令和8年（2026年）5月 1日発行



しょうぶ 菖蒲と花しょうぶ



「菖蒲」はショウブ科ショウブ属の多年草の草本です。池や沼などの水辺に自生、東アジアの温帯に広く分布し、日本でも見られます。古くは葉が細く幾重にも重なり綾を織ったように見えることからアヤメ草と呼ばれていました。開花は4月下旬から初夏（4月～7月頃）花の色は淡い黄緑色で小さな花が密集して咲きます。草丈は概ね60cm程度です。古くは薬草としても利用され乾燥させた根茎は「ショウブコン（菖蒲根）」と呼ばれ、芳香性健胃薬などに使われ、また強い香りは邪気を払うと信じられ古代中国ではヨモギ等とともに軒に吊るし、菖蒲湯に入ることによって厄払い、無病息災を願う行事が「端午の節句」となり5月5日が中国の詩人・屈原の命日で供養するためにちまきを食べる風習が生まれました。日本には奈良時代に、月の初めの午の日を祝う行事として始まり、その後、午と五の音が同じことから5月5日に定着しました。鎌倉時代にかけて「菖蒲（しょうぶ）」が武道を重んじる「尚武（しょうぶ）※尚武とは武道を尊重し重んじる態度や思想」と同じ音であることから、男の節句として広まりました。武家では後継ぎある男の子の成長と一族の繁栄を願う重要な行事となったのです。



ところで現代では菖蒲と呼ばれるのは「花しょうぶ」を表すことがほとんどです。「花しょうぶ」はアヤメ科アヤメ属の多年草で、別名「ハナアヤメ」です。縄文時代に大陸から到来した稲作は、非常な速さで全国に普及しましたが、当時は暦がなく、季節の花が農耕の指標でした。稲作には水が必要で、雨を待つ昔の人々は花しょうぶの開花を見て梅雨の到来を知りました。やがて暦が作られるようになり、「花しょうぶは」花の美しさで人々を魅了し江戸時代には多くの園芸種が作られました。特に江戸では栽培が盛んになり花しょうぶ園が葛飾堀切に開かれ、浮世絵にも描かれる名所となりました。「江戸系」「伊勢系」「肥後系」と花の特徴別に分けられています。またよく似た花で「アヤメ」、「カキツバタ」もアヤメ科アヤメ属の花です。見分ける特徴としては「花しょうぶ」は花弁の付け根が黄色、アヤメは網目模様、カキツバタは白い一筋の線があります。花を鑑賞する折に目を凝らしてみても如何でしょうか。

（写真・文：村尾廣子相談員）

花しょうぶ 付け根が黄色



アヤメ 網目模様



カキツバタ 白い一筋の線



【かわいい花木と山野草の寄せ植え】

日時：5月16日(土) 10時~12時
場所：花とみどりの相談所
講師：武部 雅子さん(園芸研究家)
定員：24人
費用：2,800円
申込：5月9日(土) 9:15~電話可

花とみどりの講習会

【初夏の草花で作る
ハンギングバスケット】

日時：5月23日(土) 10時~12時
場所：花とみどりの相談所
講師：同所相談員
定員：24人 費用：1,600円
申込：5月16日(土) 9:15~ 電話可

ゴーヤで緑のカーテンづくり

ゴーヤを育てて“みどりのカーテン”の涼しい日かげを作しましょう

壁面緑化や、地球温暖化防止効果にもつながります！

費用：各100円 事前申込み要

庄内公民館	5月20日(水)	13時30分~15時	15人
千里文化センター「コラボ」	5月21日(木)	10時~11時30分	30人
くらしかん	5月22日(金)	13時30分~15時	30人
環境交流センター	5月26日(火)	10時~11時30分	20人

※申込みは、各施設にてお願いします。

お申込み等詳しくは
広報とよなか5月号を
いっしょにください。



花とみどりの相談

相談時間は、火曜日・木曜日の13時から16時30分です。

電話による相談も行なっています。

《5月の休所日》毎週の日曜・月曜日と5日(火)・6日(水)です。

花とみどりに関する相談を
受け付けています。



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曾根南町1丁目4番1号(豊島公園内) 阪急宝塚線 曾根駅南 約500m

TEL 06-6863-8439 FAX 06-6863-3638